

地酒目利き道

地酒を選ぶ時アルコール度数を確認してますか？

金魚が中で生きていられるほど、酒を水で薄めて量を増やした物を、昔の安酒の表現で「金魚酒」という言葉が使われていました。金魚酒は相当にアルコール度数が低い酒であったと考えられます。現在でも酒を水で薄めることは行われておりますが、昔のように、酒の量を増やすという理由ではなく、酒をより飲みやすくするために適切なアルコール度数にするために加水しています。

酒類はラベルのアルコール度数の表示義務があるため、ラベルを見ればそのお酒のアルコール度数は必ず表示されています。清酒のアルコール度数は大体一五度から十六度くらいを平均として高いものは十九度くらい、低いもので十三度くらいのものであります。お酒を選ぶ時にはアルコール度数も確認してほしいもの



たくさん飲む時はアルコール度数が低めの酒を選ぶと良い

ここまで読んでもらった方はアルコール度数が低い酒＝安酒という印象を持たれるかもしれませんが、実際、度数がある程度高めのお酒の方が美味しいと感じるに違いないでしょう。しかし、アルコール度数が高いとすぐに酔ってしまい、酔った後は、ワインは十二度前後とすると、日本酒はアルコール度数が高すぎると言われています。特にお酒に弱い方に言えるのですが、いくら美味しいお酒でも、酔った後は、ワインは十二度前後とすると、日本酒はアルコール度数が高すぎると言われています。宴会に時などは、度数の低いお酒を用いると良いでしょう。

アルコール度数一八度以上のお酒
日本酒としては、最もアルコール度数が高い部類のもので、加水を行わない「原酒タイプ」は飲み応え抜群です。酔いが回るのが早いので、ゆっくりじゅっくり楽しみましょう。

アルコール度数別当店主要商品

アルコール度数一八度以上のお酒

黒牛 純米無濾過生原酒 二、八九〇円
刈穂 山廃純米生原酒 二、九四〇円



アルコール度数一七度台のお酒

吟醸造りのお酒の原酒はこのあたりです。また、最高峰の地酒が全国から集まる全国新酒鑑評会というお酒の大会に出品されるお酒はほとんどがこの度数帯です。度数の高い部類なので、普通の人はがぶ飲みを避けた方がよいかと思えます。ばくれん 吟醸酒超辛口 二、三二〇円

北育ち 吟醸酒生詰め原酒 三、六八〇円
アルコール度数一六度台のお酒

日本酒が一番美味しい度数帯と言われています。一五度台が普及酒、この度数帯を高級酒として分けている蔵元も多く、より高価な酒が揃っているのもこの度数帯であるといえるでしょう。

北斗随想 純米吟醸 三、一五〇円
香月 純米吟醸 二、八〇〇円



アルコール度数一五度台のお酒

地酒のほとんどは一五度台です。この度数を基準として、これより度数の高いものは、度数の高い酒、これより度数の低いものは、度数の低い酒というふうになります。

八海山 本醸造 二、五五〇円



アルコール度数一四度台のお酒

やや度数の低めのお酒は、淡麗で飲みやすいものが多いです。この手の酒は体によさしく、酒を長い時間楽しみたい時には最適です。「気が付くと一升瓶が空になっていた」ということが多いのもこの手の酒の特徴。酒を楽しんで飲むことが出来るため、結果的に相当な量を飲めてしまいます。

山法師 純米酒 二、八四〇円
式乃越州 特別本醸造 二、三九〇円



アルコール度数一四度未満のお酒

ビールやワインに比べると日本酒はアルコール度数が高すぎると言われています。そのため、最近ではアルコール度数の低いタイプの清酒が多く発売されています。実際に、大手の激安パック酒は十三度台を採用しており、現在では、この度数帯の清酒が一番多くの人飲まれているといえます。

風よ水よ人よ 純米酒 一、七三〇円



江戸時代の酒

江戸時代の酒のアルコール度数は十二度程度、日本酒度はマイナスイナス五〇程度だったといいますが、今から考えると飲めたものではないレベルのものだったようです。江戸時代と比べると、現在の酒造技術ははるかに発達しているといえます。